Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-15

第5章 地域連携センターを拠点とするプロジェクト

吉川, 圭太
村井, 良介

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,14(平成27年度事業報告書):53-54

(Issue Date)
2016-03-22

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009353

第5章
地域連携センターを拠点とするプロジェクト

平成27年度科学研究費補助金基盤研究（S）「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立―東日本大震災を踏まえて」の研究支援

2014年度からスタートした上記テーマの新規科研研究は、2013年度までの科研研究「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」の成果を踏まえ、東日本大震災後の新たな課題（津波、放射能被害など）及び海溝型地震への対応をさらに進め、「災害文化」形成に資する地域歴史資料学を確立することを目的としている。

2015年度は、学内外あわせて2回の地域歴史資料学研究会を開催した。第5回研究会（身近な文化財を災害と日常の滅失から守る研究会、11月25日、於近大姫路大学）、第6回研究会（兼第5回被災地図書館との情報交換会、2016年1月22日、於神戸大学附属図書館）。また、5月22日には2014年度の総括研究会を東京にて開催した。

12月5日には、本科研研究グループが主催団体の一つである被災地フォーラム「自然災害に学ぶ茨城の歴史―被災の記憶と教訓を未来へ」を茨城大学で開催し、12月6日には福島県南相馬市内において被災地巡検を行なった。

国際的な研究交流としては、10月22～27日に、本科研研究グループと東北大学災害科学国際研究所が主催する国際会議「文化財防災体制についての国際比較研究」を開催した。本会議では、イタリア国立保存修復高等研究所のカルロ・カカーチェ氏を招き、神戸会議（10月22・23日、於神戸大学文学部）、公開フォーラム（10月24日、於神戸大学瀧川記念学術交流会館、参加者約80名）、仙台会議（10月27日、於東北大学災害科学国際研究所）の一連の研究会議を通して、日伊の文化財防災について議論した。また、上海大学で開催された第3回上海大学・大阪市立大学国際シンポジウム（11月14日）において、奥村弘が災害文化形成に関する講演を行った。

本年度は他団体と協力し、次のような研究事業を実施した。独立行政法人国立文化財機構が本年度から進めている文化財防災ネットワーク推進事業の一環として、9月28～30日の3日間にわたり同機構アソシエイト・フェローを対象とした研修が福島大学及び東北大学災害科学国際研究所で開催された（科研S研究グループ協力）。同研修では東日本大震災における資料救出や文化財防災対策などがテーマとなった。

被災資料・歴史資料の調査保全としては、歴史資料ネットワークと協力し、2015年9月の関東・東北豪雨災害で被害を受けた茨城県常総市の水損行政文書の保全活動を支援した。また、淡路市の地域資料について淡路市教育委員会とともに概要調査をおこなった。

そのほかの研究活動としては、阪神・淡路大震災時の資料保全活動のデータ整理を進めた。また、2004年の台風被害で水損した地域資料の修復作業・ワークショップを大阪芸術大学短期大学部伊丹学舎にて実施したほか、市民と共同した地域歴史資料の保全・活用実践事例の調査（兵庫県朝来市）などの研究を展開した。

（文責・吉川圭太）

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）「地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」

神戸大学・兵庫県立大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学では、2015 年度より５か年の計画で、文部科学省より地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）「地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」の採択を受け、事業を開始した。

本事業では「歴史と文化」「自然と環境」「子育て高齢化対策」「安心安全な地域社会」「イノベーション」の５領域にそれぞれコーディネーターを配置し、課題に取り組む。人文学研究科地域連携センターは、このうちとくに「歴史と文化」領域の取り組みを進めるための拠点と位置づけられている。ここでは今年度の「歴史と文化」領域の活動について述べる。

本事業では地域課題を解決できる人材育成のために、地域志向科目を開発・整備することを目指すが、今年度は教育プログラムの調査・開発の期間にあたり、「歴史と文化」領域コーディネーターの村井良介が、各地のＣＯＣ／ＣＯＣ＋事業に採択された大学の企画等に出席し、他大学の取り組みなどを調査した。出席した企画は次のとおりである。①２月８日、FD・SD セミナー「今、必要とされる地域貢献マインドとアクション」（山口大学）。②２月 11 日、園田学園女子大学地域志向教育研究報告会（園田学園女子大学）。③２月 16 日、ＣＯＣフォーラム「コミュニティ再生（ＣＲ）副専攻成果報告会」（大阪市立大学）。また２月 27 日・28 日「全国ネットワーク化事業

平成 27 年度ＣＯＣ／ＣＯＣ＋全国シンポジウム」（高知商工会館／ザ・クラウンパレス新阪急高知ＨＰ）、２月 29 日、博学連携シンポジウム「大学の“学芸員養成”教育と博物館～文化の裾野を広げるために～」（三重大学）に参加する予定である。

また、人文学研究科地域連携センターが主催する第 14 回歴史文化をめぐる地域連携協議会を、今年度は本事業の一環として開催した。

このほか、地域指向科目の整備・開発、テキスト作成などに向けて、課題の整理、カリキュラムの体系化などについて議論をおこなった。

（文責・村井良介）